



担当の宮崎調教厩務員と。宮崎さんは「レイズ」と呼んでいます



小島友実の あの馬の STORY

レイズアセイル

一頭性格が異なり、馬は一頭と改めて感じた事が多いのですが、今回わざと個性的な馬に出会いました。その時はレイズアセイル。どの辺りが個性的なのか。この馬が歩んできた道程と共に紹介していくおしゃべり。管理する奥平雅士調教師がレイズアセイルを初めて見たのは約10年前の6月頃だそうですね。

「一見アーヴィングで初めて見た時、牝馬らしい綺麗な馬だなと思いましたね。その後の育成も遅く順調でした」「デビ」の一戦は去年6月の東京戦。芝の1400mで、戦が選択されました。

「前脚の捌きが軽い馬だったのです」と

「デビ」の一戦が選択されました。結果は着でした。が、セハベのお手を見せて貰ったので能力があると感じましたね。その後も2戦は芝を走って、2戦目は3着でした。が、3戦目が良馬場で9着と崩れてしまつたんですね。その前の2戦が稍重だったので、少し時計がかかる方がいいかもしれないという事で、4戦目からはダートに向かいました」

そして、レイズアセイルは徐々にこんな素性を見せ始めたのです。

「この馬は面白くてね。ムキになつて走る所もあるんだよ。途中で手を抜く時もある。相反する要素が同居しているタイプなんです。調教中も、厩舎周りで運動して人を乗せたりスベ向かうとしたら、馬房に戻りたいと主張した事もあつたんだね(笑)」

厩舎で取材をしたところ、馬は一頭この手。距離を伸ばしたら、8戦目からはブリンクカバーを着用したり、初勝利を目指す様々な策を講じました。

そしてデビコールから13戦目。7月の福島戦で嬉しい瞬間がやってきました。「デビ」前はレバーハンプでした。一度抜け出したのに内の馬に差し返されてしまふと思つた所でまた伸びました。田嶋圭太騎手も「抜け出したら遊びでしおった」と語っています。田嶋騎手に対してもそのような事をあるのですから、癖はある馬です(苦笑)。でも勝った時は遅く嬉しかつたんですね。勝ったばかり一年かかりましたから」

更に語はる馬の印象についての話について語りました。

「大きな怪我がなかつたのもあるから1年で13回も走れたのは毎回いいが、適度に力を抜いて走つてたところが、3戦目が良馬場で9着と崩れてしまつたんですね。その後も走れませんから。だからこの馬はまだ能力を隠してる所があると思います。奥があつたんですね」

9月10日。レイズアセイルは会心の厩舎を訪ね、担当るのは宮崎政幸調教師。お話を伺いました。

「今年4月頃からの馬を担当していまます。初めの頃は少し神経質な面がありました。丁寧に接していくたら落ちついてきて、今は馬房では大人しく扱いやさしいですね。乗ついても素直ヒントロールしやすくて、ガレースでもあります。攻め馬でも力を抜いて

しほの所があるので、集中力を持続できるように心がけています」

厩舎で会ったレイズアセイルはむちよじで、夕方の飼葉の時間で、黙々と食べ続け姿が印象的でした。

今後の事を奥平調教師に伺いました。「つづけはまだ走りをしてみたいですが、しばらくはスターターでします。9月の昇級戦では、あの程度の位置で運べて内容は悪くなかったからね。さつきも話したように全力を出さない印象なので、1000万クラスで経験を積んでいけば良い勝負ができるのではないかでしょうか。父ハーツクライの成長力も込みで、まだまだ頑張れると感じます。僕も楽しめていますよ」

人間でも途中で気を抜きたくなる事、ありますよね。それでもレイズアセイルは毎回、大崩れる事なく走つてくるのですから、やはり能力があると感じさせます。これからの馬に成長するのか。今後が楽しみですね。



7月5日・福島 初勝利のウイナーズサークル

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。